

楽しく通ってほしいな～登園しがり～



どうして園に行きたくないのかな。

ワクワクドキドキしながら迎えた新学期。楽しく園に通ってくれば一安心ですが、中には「行きたくない。」「おうちにいたい。」と言う子どもいるのではないのでしょうか。他の子どもが楽しそうに園に通っているのに、「うちの子はどうして?」と心配になりますよね。

今まで家庭でおうちの方と過ごしてきた子どもにとっては、長時間一人で過ごすことへの戸惑いや不安を感じるのは当たり前です。楽しそうに通園している子どもでも実は緊張していたり、慣れない環境で頑張ったりして、おうちでは甘えん坊になるものです。

そんな時、園では、子どもの不安な気持ちや戸惑いを受け止め、傍に寄り添い、たくさんスキンシップをとったり、興味をもてそうな遊びを探したりしていきます。

園が楽しい場所であること、先生が安心できる存在であること、おうちの方は必ず迎えにくることなどを知らせ、少しずつ園生活に慣れていくことができるようにしていきます。

心配で子どもと離れがたいと思いますが、おうちの方の不安は子どもに伝わりやすいものです。まずは笑顔で「楽しいことがあるよ。行ってらっしゃい。」と見送っていただき、園や先生を信頼して任せてください。

それでも大泣きする子や、足取りが重い子には、右記の方法を参考に、登園前の“我が家流の儀式”を見付けてみてはいかがでしょうか。おうちの方の愛情を感じ、元気が出たり、気分が変わったりするかもしれませんよ。

帰宅後は、おうちでゆったり過ごし、たっぷり触れ合って、パワーをあげてください。きっと、翌日、また頑張る力になりますよ。



園にミミちゃん、いるかな。

気持ちが切り替えられるような声を掛ける



たくさん遊んでおいで。

「行ってらっしゃい。」のキュー!



チョウチョが「おはよう」って飛んできたね。

家から園まで、花を見たり虫を探したりし、散歩しながら登園する

上手に箸が使えるように～箸の持ち方～

「うちの子は箸がうまく使えなくて」とお悩みの方も多いことでしょう。

箸の持ち方は手の機能の発達と関連性があります。スプーンを下図の①②のような持ち方をしている段階は、まだ指先がうまく使えず、箸の持ち方を教えても正しく持つことはできません。この時期には、遊びの中で手先を使う経験をたくさんしておくことが大切です。

スプーンや鉛筆の使い方を目安に、③の段階になったら正しい持ち方を教え、始めてみるとよいでしょう。ただし、まだ集中力が続かないため強制は禁物です。スプーンやフォークと併用しながら部分的に箸を使うのがよいでしょう。

④の動的三指握りができるようになれば、正しい持ち方を教えていく必要があります。箸が使えたという喜びが味わえるように、つかみやすい食材や大きさを工夫して、成功体験を増やしていきましょう。

焦らず、根気よく教えていくことが重要です。また、大人が正しい持ち方を意識することも大切です。手の機能の発達、今、どのような段階なのか、成長を把握し、食べこぼしが少なくなったら次の段階の持ち方を試していくとよいですね。

日本の伝統文化の一つである箸を、次世代を担う子どもたちが使えるようにしていきましょう。

うちの子箸がまだうまく使えない。



	スプーン	箸	鉛筆
① 手掌回内握り 手掌回外握り (1～1.5歳)			
② 手掌回内握り (2～3歳)			
③ 静的三指握り (3.5～4歳)			
④ 動的三指握り (4.5～6歳)			

「発達が気になる子への生活動作の教え方」より



3

おいしく食べてほしい～偏食の対応～

食事と健康のかかわりを理解し、
バランスのとれた食事づくりに努めましょう。

薄味を心がけ、子どもの発達に合わせているいな食品や料理に慣れさせましょう。

幼児期は、睡眠、食事、遊びといった生活のメリハリをつけ、一生を通じての食事のリズムの基礎をつくる重要な時期です。

好奇心も旺盛になってくるので、食への興味や関心をもてるよう食べる意欲を大切にしましょう。

家族そろって楽しい雰囲気でも食べられるといいですね。



お腹すいた

体を動かして十分に遊び、空腹や食欲を感じ、食事を規則的にとる生活習慣を身に付けることが大切です。



食べたい!大好き

苦手とするものでも、見た目を変えて調理すると、食べられる場合があります。嫌いなものを無理に食べさせるのではなく、好きなものを増やしていきましょう。



頑張ってるね

家族と、和やかな食事を体験することにより、安心感や信頼感が生まれ、食への意欲につながります。

「これ、おいしいよ。」や「頑張ってるね。」などの言葉により自分から食べようとする気持ちが生れます。



楽しい!おいしい

幼児期から、一緒に料理したり自分で育てた野菜を食べたりすることで、食への関心が高まり、食材のおいしさにも気付くきっかけとなります。



4

片付けできるかな?～片付けの工夫～

子どもがいると家の中が片付かない、片付けをしない、おもちゃが増えて困る…など、片付けの悩みは子育てにつきものですね。

「片付けなさい。」とつい言ってしまうがちですが、実は「片付ける」という言葉は、「何を、どこへ、どのようにすれば良いのか」が分かりにくい曖昧な言葉でもあります。

そこで「片付ける」＝「使ったものを元の場所に戻す」と考えてみましょう。

「おもちゃをおうちに返そうね。」「おもちゃを持ってきた場所に返してごよう。」などと声を掛けてみると、少し分かりやすくなるのではないのでしょうか。

まずは、収納の仕方を見直してみましょう。物の置き場所を明確にすることで、片付けは短時間に、より取り組みやすくなります。

次のような工夫はいかがでしょうか。

うちの子
片付けをしない。
家の中が、
片付かないわ…。



おもちゃなど



- 乗り物、ままごとと道具、絵本、パズルやゲーム類、積み木など分類して収納しましょう。箱や引き出し、棚など遊具の定位置を決めておくと、出しやすく戻しやすくなります。
- 収納場所に写真やイラストを貼っておくのも場所が分かりやすくおすすめです。



たくさんのおもちゃを一度に出してしまった場合は、大人と一緒に分類しながら「〇〇のおうちはどこかな?」など言葉を添えて手渡してあげると、片付けやすくなるでしょう。



洋服など



- 下着類、Tシャツ類、ズボンなど分けて収納してみましょう。
- 脱いだものは洗面所のかごに入れるなど、簡単に始末できるように、工夫してあげましょう。



収納場所が明確になると、収納できる量も分かりやすくなります。大人が定期的に量を調整し、おもちゃが多すぎる場合は一旦しまっておくこともよいでしょう。



片付けた結果「きれいになった」「心地よい」という感覚を味わうことも、とても大切なことです。「〇〇ちゃんが頑張ったから部屋がきれいになったね。」「こんなにスッキリして気持ちがいいね。」など具体的に言葉にして認めながら、片付けるときれいになるということを、繰り返し知らせていきましょう。